

○計画期間:平成29年4月～平成34年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点(令和2年3月31日時点)の中心市街地の概況

熊本地震から約4年が経過する中、中心市街地の歩行者通行量は震災前より引き続き増加し、地価も年々上昇を続けている等、中心市街地活性化基本計画に掲げる震災からの復興を後押しする取り組みの効果が発現してきている。

熊本城地区では、熊本城復旧基本計画に基づいた熊本城大天守の外観修復工事が終了したことに伴い、二の丸広場から天守閣前広場まで渡れる専用の通路を設置して、2019年10月から熊本城の特別公開が第一弾として開催され、今後は本丸御殿の南側に設置される特別見学通路を使用する特別公開の開催も予定している。

通町筋地区においては、2017年の商業施設「COCOSA」の開業に沸いた一方で、長年若者を中心にファッションの発信地として親しまれてきた「熊本パルコ」が2020年2月をもって閉店した。これには、築47年のビルの老朽化が要因の一つとされており、今後においては、現在のビルを解体し、跡地に複合ビルが建て替えられる予定であり、この複合ビルへの「熊本パルコ」の再出店が検討されている。

桜町・花畑地区では、桜町地区再開発事業により、バスターミナル、商業施設「SAKURAMACHI Kumamoto」、「熊本城ホール」を含む再開発施設が2019年に開業した。また、これに隣接する(仮称)花畑広場とシンボルプロムナードでは、2つの既存都市公園を含め一体的に整備を行い、オープンスペースとして利活用するため、2020年1月から工事に着手したところである。

新町・古町地区においては、多くの町屋が被災するなか、城下町の風情が感じられる町並みを保存するべく、町屋等の歴史的建造物の景観資源としての価値を活かして修理・維持する取り組みが広がっており、昔ながらの外観を保ちつつもその用途をカフェやゲストハウスとして利用する等、町屋保存に向けた動きが近年広がっている。

熊本駅周辺地区では、JR熊本駅周辺の連続立体交差事業とともに整備が進められてきた、JR熊本駅の在来線新駅舎が2019年3月の完成に伴い供用を開始し、熊本城の石垣である武者返しをイメージした外観や駅構内の商業施設「肥後よかモン市場」等が、多くの観光客等を惹きつけ連日賑わいをみせている。今後、2020年度中の完成を予定している熊本駅白川口(東口)駅前広場や2021年春の開業を予定するJR熊本駅ビルが新たに整備されることで、駅の利用者や観光客の利便性を高めたくまもとの玄関口としての役割が更に向上されるものと期待されている。

なお、2019年に開催されたラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会の二つの国際スポーツ大会により、国内外から多くの観光客が来熊したことに伴い交流人口が拡大され、市内はもとより中心市街地の活性化を図ることに繋がった。この賑わいの効果を一過性のものとせず、中心市街地の活気を持続させる新たな魅力づくりのきっかけとすることが、今後の課題となってくる。

また、震災からの復興需要もピークを過ぎつつあることから、時々刻々と変わる中心市街地の

状況に注視するとともに、引き続き認定基本計画に示された事業を着実に進め、中心市街地の活性化に取り組むものである。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成28年度 (計画前年度)	平成29年度 (1年目)	平成30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)
人口	36,792人	37,013人	37,132人	36,994人		
人口増減数	▲241人	221人	119人	▲138人		
自然増減数	▲60人	▲18人	▲62人	▲109人		
社会増減数	▲181人	239人	181人	▲29人		
転入者数	4,544人	4,133人	4,268人	4,284人		

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成28年4月発災の熊本地震から4年が経過し、中心市街地においては、ビルや店舗等の復旧・復興が着実に進み事業再開するなど、創造的復興に向け順調に歩みを進めている。

令和元年度、中心市街地の2核3モールの一画をなす桜町地区の再開発事業においては、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等を含む再開発施設が開業したことにより、中心市街地の賑わいの創出に大きく貢献した。また、熊本地震によって、大きな被害を受けた熊本城は、大天守の外観復旧工事が完成し、特別公開が行われる等、着々と復旧が進行し、市内外からの集客にも貢献しており、今後の新たな展開に期待するところである。熊本駅周辺の事業においても、2021年春に開業が予定される駅ビルとそれにつながる駅前広場の整備も着実に進められており、完成後は広域からの集客に繋がるものと思われる。一方、秋から冬にかけ開催されたラグビーワールドカップと女子ハンドボール世界選手権大会の二つの世界的スポーツイベントは、国内外から多くの人々を集め、交流人口の拡大と熊本の魅力を世界にアピールすることで、地域の活性化と賑わい創出に大きく貢献し、今後に繋がることを大いに期待するところである。

この様にこれまで官民の密接な連携により、各種事業に取り組み、計画は概ね順調に進捗しており目標達成に向け進んでいると評価しているところである。しかしながら、昨今、世界に広がる新型コロナウイルスの感染拡大は、世界の動きを止めてしまうほどに大きな影響を与えており、地域においてもその悪影響は計り知れないものとなり、情勢悪化と共に先行きが見通せない状況となっている。中心市街地においても業種を問わず大きな影響が出ており、中心市街地活性化基本計画の各種事業に与える影響を懸念するところである。協議会としても、今後の事業推進について注視しながら関心をもって対応していきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
にぎわいあふれる城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762 人/年 (平成 28 年度) (2016 年度)	2,650,000 人/年 (平成 33 年度) (2021 年度)	4,190,100 人/年 (令和元年度) (2019 年度)	A	①	①
安心してずっと暮らしたいまち	中心市街地内の居住人口	36,604 人 (平成 28 年 10 月 1 日) (2016 年 10 月 1 日)	37,000 人 (平成 33 年 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	36,847 人 (令和元年 10 月 1 日) (2019 年 10 月 1 日)	B	①	①
誰もが訪れてみたくなるまち	熊本市内の宿泊客数	2,637,637 人/年 (平成 27 年) (2015 年)	3,000,000 人/年 (平成 33 年) (2021 年)	2,800,000 人/年 (速報値) (令和元年) (2019 年)	B	①	②

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、熊本城の復旧過程を観光客の来城や、再開発施設の開業に伴う桜町・花畑周辺地区の賑わい創出により、目標値を上回った。

「中心市街地内の居住人口」については、目標値は下回っているものの、企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大を図るとともに、UIJ ターン促進による居住の増加に取り組むことにより、目標達成可能であると見込まれる。

「熊本市内の宿泊客数」については、目標値を下回っているが震災前の基準値は上回っており、2019 年度の桜町地区再開発施設の開業や、2020 年度におけるシンボルプロムナード等の整備完了により、更なる交流人口の増加を図ることで宿泊客数の増加に取り組んでいくものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、宿泊施設のキャンセルが相次いでおり、目標達成が難しい状況となっている。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

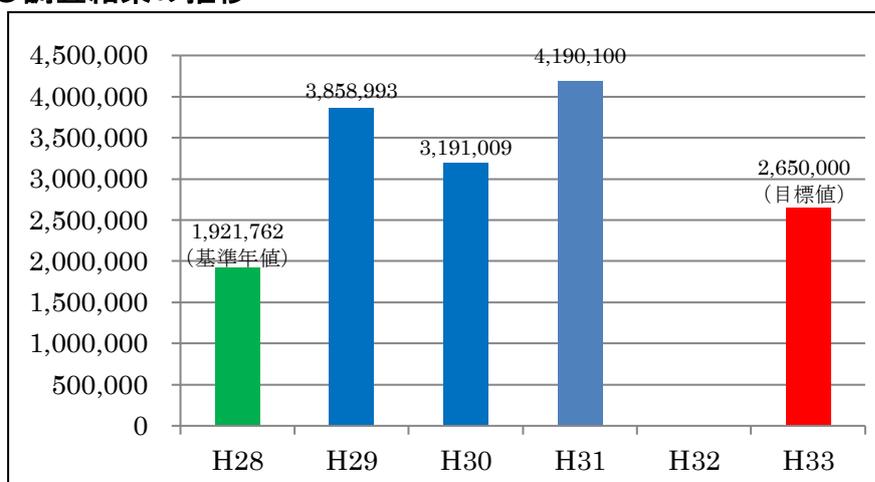
「熊本市内の宿泊客数」

目標達成見通しについては、2019年度における熊本城大天守の外観修復工事の終了に伴う特別公開や、桜町再開発事業における再開発施設の開業、また、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権といった国際的なスポーツイベントの開催等による国内外からの観光客の来熊に伴って、宿泊客数についても計画作成時の基準値を上回って着実な増加の傾向を辿り、概ね順調に推移するところであった。これにより、当該目標においては目標達成可能(①)と見込んでいたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、2020年3月における宿泊施設キャンセルが前年同月比で約5割減となったため、②と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H28	1,921,762 (基準年値)
H29	3,858,993
H30	3,191,009
H31	4,190,100
H32	
H33	2,650,000 (目標値)

※調査方法：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者を計測

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城復旧整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】		
事業概要	復興のシンボルである「天守閣」をはじめ、石垣・建造物や便益施設等を含む熊本城全体の復旧を行う。		
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁）（H29年度～H33年度） 都市災害復旧事業費補助（国土交通省）（H29年度～H33年度） 防災・安全交付金（都市公園安全・安心対策事業）（国土交通省）（H29年度～H33年度）		
事業効果及び進捗状況	熊本城復旧基本計画を2018年3月に策定しており、これに伴い2019年10月に大天守の外観修復工事が終了したことにより、専用通路を整備しての特別公開を実施して、入込数の拡大が図られた。 今後は、2021年春頃の天守閣全体の完全復旧を目指すとともに、天守閣の中まで入っての見学を可能とするよう観覧環境の整備にも取り組むこととしている。 【熊本城公園への入込数】		
	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)

	熊本城	2,104,195人	1,697,915人	1,968,652人
	城彩苑	1,213,204人	1,044,285人	1,194,732人
事業の今後について	事業は、熊本城復旧基本計画に基づき順調に進捗しており、2021年春頃を見込んだ天守閣全体の復旧へと向けて、着実に事業を進めていく。			
②. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）				
事業実施期間	平成20年度～令和2年度【実施中】 [認定基本計画：H20年度～R1年度]			
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。			
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度）] 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） [認定基本計画：防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度）] 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） [認定基本計画：防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）] 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） [認定基本計画：災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）] 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） [認定基本計画：都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度）]			
事業効果及び進捗状況	本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、広域バスターミナルや商業・交流機能等を備えた施設整備を行うことで、桜町・花畑周辺地区の賑わいの創出を図る。 【スケジュール（見込）】 令和元年度（2019年度） 建設工事・工事監理、施設完成 令和2年度（2020年度） 清算、事業終了			
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、桜町・花畑地区のにぎわい創出の一助となると見込まれる。			

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成25年度～令和2年度【実施中】								
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。								
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～R2年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>暫定供用している（仮称）花畑広場において、飲食・物販やステージイベント等の多様な利用が行われ、休日の稼働率は6割近くに上り、約100万人が来場するなど桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。また、イベント開催時においては中心商店街全体の歩行者通行量が増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができた。</p> <p>【（仮称）花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成29年度 （2017年度）</th> <th>平成30年度 （2018年度）</th> <th>令和元年度 （2019年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>541,594人</td> <td>448,809人</td> <td>1,026,716人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>令和元年度（2019年度） 実施設計・施設工事 令和2年度（2020年度） 施設工事・施設完成</p>			平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）	541,594人	448,809人	1,026,716人
平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）							
541,594人	448,809人	1,026,716人							
事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2020年1月にて工事に着手したことから、2020年度中における整備完了に向けて、事業の着実な取り組みを進めていく。								

④. 熊本城周遊バス運行事業（熊本市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】								
事業概要	熊本駅を発着とし、熊本城を含む市内中心部等をつなぐ周遊バスを運行する。								
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>熊本駅と熊本城・城彩苑を含む市内中心部等をつなぐことにより、中心市街地内の回遊性向上につながるとともに、熊本城へのアクセスも向上し、熊本城公園への入込数の拡大に寄与するものである。</p> <p>【バス乗車人数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成29年度 （2017年度）</th> <th>平成30年度 （2018年度）</th> <th>令和元年度 （2019年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85,531人</td> <td>83,417人</td> <td>89,794人</td> </tr> </tbody> </table>			平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）	85,531人	83,417人	89,794人
平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）							
85,531人	83,417人	89,794人							
事業の今後について	事業は、観光客等の熊本駅から市内中心部等への円滑な交通手段								

いて	として定着しており、引き続き事業を進めていく。
----	-------------------------

⑤. 中心商店街地区魅力向上事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】		
事業概要	中心商店街において賑わいイベント（STREET ART-PLEX KUMAMOTO）を年に数回開催する。		
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R3年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～H31年度）〕		
事業効果及び進捗状況	中心商店街においてパフォーマンスイベントを開催することにより、質の高い中心商店街の賑わい形成を図るとともに、中心市街地内の回遊性向上を図る。		
	【集客数】		
	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）
	29,263人	35,654人	19,871人
事業の今後について	事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてイベントの中止を余儀なくされ、昨年度と比較し集客数の減少が見られたが、中心商店街での多種多様な賑わい創出イベントとして定着しており、引き続き事業を進めていく。		

●目標達成の見通し及び今後の対策

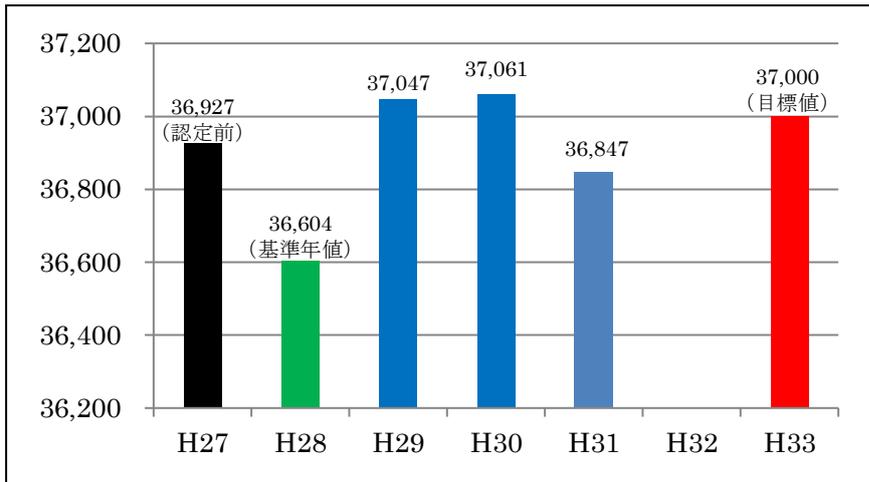
熊本城の復旧過程を観光資源として活用する中で、2019年10月において熊本城大天守の外観修復工事の終了に伴う特別公開が開催されたことにより、熊本市内外の観光客に対し熊本城再建への高い関心を引き起こすことができ、また、2019年に商業施設「SAKURAMACHI Kumamoto」や、「熊本城ホール」等を含む再開発施設の開業により、中心市街地における更なる賑わいの創出が図られた。これらのことから、熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数については、すでに大きく目標値を上回っており、各事業概ね順調な進捗状況であることから目標達成は可能だと思われる。

今後、熊本城においては、2021年春頃の天守閣全体の復旧完了と内部公開を予定しており、更なる入込数の増加を図っていく。

また、桜町・花畑周辺地区においては、2020年度中におけるシンボルプロムナード整備完了や、2021年度以降の（仮称）花畑広場を含めたオープンスペースの本格運用による更なる賑わい創出に向けて、事業を着実に進めていく。

「中心市街地内の居住人口」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H28	36,604 (基準年値)
H29	37,047
H30	37,061
H31	36,847
H32	
H33	37,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：10月1日現在

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地内7校区の住民基本台帳登録者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～令和2年度【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～H31年度） 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～H31年度）
事業効果及び進捗状況	本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、全159戸のマンションの整備によって、中心市街地の居住人口の増加が図られる。 【スケジュール（見込）】

	令和元年度（2019年度） 建設工事・工事監理、施設完成 令和2年度（2020年度） 清算、事業終了
事業の今後について	2020年度事業終了を見込んでいるものの、今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、居住人口の増加に寄与すると見込まれる。

③. 企業立地（誘致）促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成11年度～【実施中】								
事業概要	熊本市企業立地促進条例に基づき、立地企業に対し助成を行う。								
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>2019年度の企業立地件数は12件となり、情報関連産業・アウトソーシング業等、様々な企業が進出している。また、立地企業の新規雇用予定者数は230人にのぼり、中心市街地の居住人口の増加に寄与している。</p> <p>【当事業を活用した企業の立地件数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成29年度 (2017年度)</td> <td>平成30年度 (2018年度)</td> <td>令和元年度 (2019年度)</td> </tr> <tr> <td>16件</td> <td>17件</td> <td>12件</td> </tr> </table>			平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	16件	17件	12件
平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)							
16件	17件	12件							
事業の今後について	事業は、震災からの復興を目指しての積極的な誘致活動に加え、立地企業へのアフターフォローを充実させるなどの支援体制の強化によって、着実な企業立地に結び付けており、引き続き事業を進めていく。								

④. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】								
事業概要	中心商店街に隣接する熊本市現代美術館内に「街なか子育てひろば」を開設する。								
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（H29年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>街なかに、気軽に立ち寄れる子育て支援施設を設置することにより、誰もが子育てしやすい環境を提供し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。</p> <p>【利用実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成29年度 (2017年度)</td> <td>平成30年度 (2018年度)</td> <td>令和元年度 (2019年度)</td> </tr> <tr> <td>20,661人</td> <td>15,644人</td> <td>19,186人</td> </tr> </table>			平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	20,661人	15,644人	19,186人
平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)							
20,661人	15,644人	19,186人							
事業の今後について	事業の利用実績は回復傾向にあり、子育てに関する相談や情報収集ができる場として、子育て世代に優しい居住環境を整備するため								

には必要であり、引き続き事業を進めていく。

⑤. ファッションの街くまもと魅力創出事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】								
事業概要	若者・女性への訴求力が強いファッションイベントを開催する。								
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～H31年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H32年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>ファッションの発信地点として、とりわけ若者に高い影響力のある中心商店街において、ファッションイベントを開催することにより、地域ファッション関連産業の活性化を図るとともに、若年層の地元就職率の向上にもつなげていき、若者等のまちなか居住を促進する。</p> <p>【イベント来場者数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成29年度 （2017年度）</td> <td>平成30年度 （2018年度）</td> <td>令和元年度 （2019年度）</td> </tr> <tr> <td>約4,000人</td> <td>約7,000人</td> <td>約9,600人</td> </tr> </table>			平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）	約4,000人	約7,000人	約9,600人
平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）							
約4,000人	約7,000人	約9,600人							
事業の今後について	事業は、若者を中心としてイベント来場者数が年々増加傾向にあるうえ、ファッション産業の振興へ向けたコンテンツとしても次第に定着しつつあることから、引き続き事業を進めていく。								

●目標達成の見通し及び今後の対策

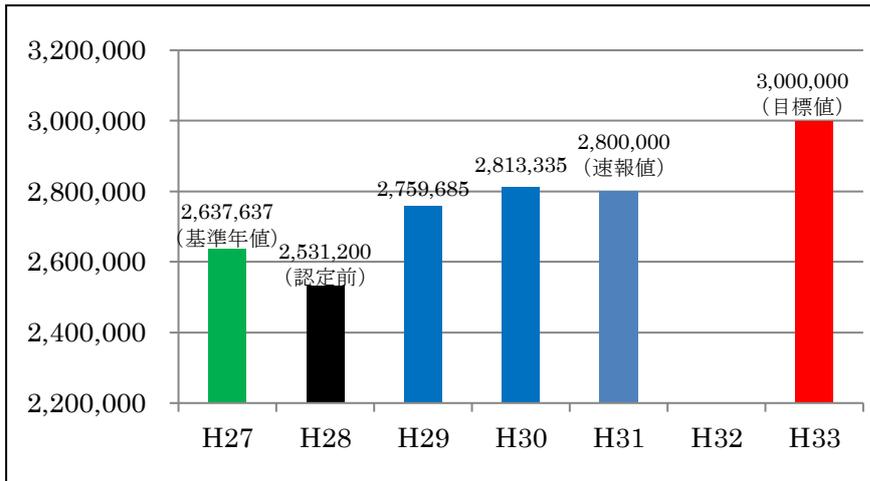
中心市街地への集客力を高めるための事業への取り組みにより、基準値を上回ることはできているものの、昨年と比較して減少しているうえ目標値も下回る事となっている。しかしながら、企業立地に伴う新規雇用予定者数は昨年を上回る人数となっているなど、雇用における回復傾向の兆しが見受けられ、また、桜町地区再開発事業におけるマンション整備において、全159戸の整備が完了し、事業の着実な進捗が見込まれることから目標達成は可能だと思われる。

今後も、引き続き本市のビジネス環境等の優位性や都市機能の集積などを活かして、積極的に企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大につなげていく。また、UIJターンの取り組みにより居住促進を図っていくとともに、子育て支援施設の整備に伴い子育て環境を充実させることにより、中心市街地の居住人口の増加を図っていく。

あわせて、桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備においては、震災の経験を踏まえた防災面からの機能強化を図り、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めていく。

「熊本市内の宿泊客数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H27	2,637,637 (基準年値)
H28	2,531,200
H29	2,759,685
H30	2,813,335
H31	2,800,000 (速報値)
H32	
H33	3,000,000 (目標値)

※調査方法：熊本市内の宿泊客数調査からの集計

※調査月：毎年1月～12月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成20年度～令和2年度【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～H31年度） 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～H31年度）
事業効果及び進捗状況	本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、客室数約200室のホテルの整備によって、中心市街地の交流人口の増加が図られる。 【スケジュール（見込）】

	令和元年度（2019年度） 建設工事・工事監理、施設完成 令和2年度（2020年度） 清算、事業終了
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、来熊者の増加に寄与し宿泊客数の増加の一助となると見込まれる。

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成25年度～令和2年度【実施中】						
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。						
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～R2年度）						
事業効果及び進捗状況	<p>暫定供用している（仮称）花畑広場において、飲食・物販やステージイベント等の多様な利用が行われ、休日の稼働率は6割近くに上り、約100万人が来場するなど桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。また、イベント開催時においては中心商店街全体の歩行者通行量が増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができ、市内の宿泊施設への利用者数の増加にも大いに寄与している。</p> <p>【（仮称）花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成29年度 （2017年度）</th> <th>平成30年度 （2018年度）</th> <th>令和元年度 （2019年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>541,594人</td> <td>448,809人</td> <td>1,026,716人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>令和元年度（2019年度） 実施設計・施設工事 令和2年度（2020年度） 施設工事・施設完成</p>	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）	541,594人	448,809人	1,026,716人
平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	令和元年度 （2019年度）					
541,594人	448,809人	1,026,716人					
事業の今後について	事業は順調に進捗しており、実施計画の完了に伴い020年1月にて工事に着手したことから、2020年度中における整備完了に向けて、事業の着実な取り組みを進めていく。						

④. 熊本城マラソン事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	約14,000人のランナーによるマラソン大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～H33年度）
事業効果及び進捗状況	エントリー者数における県外者の割合は、継続的に4割を維持しており、広報に工夫を凝らす等の事業の認知度向上の取り組みを進めており、県外からの宿泊客数の増加に大いに寄与している。

	【エントリー者数】		
	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)
エントリー者数	26,722 人	25,552 人	25,355 人
うち県外	10,742 人 (40%)	10,216 人 (40%)	10,066 人 (40%)
事業の今後について	事業は、本市の主要スポーツイベントとして県内外に広く定着してきており、引き続き事業を進めていく。		

⑤. 誘致戦略事業（熊本市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】														
事業概要	学会、大会などのコンベンション、コンサートや展示会等のイベント、企業研修やインセンティブトラベル等の誘致に取り組むとともに、受入環境の充実を図る。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29 年度～H33 年度）														
事業効果及び進捗状況	<p>コンベンションの開催件数においては、大規模なコンベンションの開催が相次いだことから、参加人数は昨年同様に高い水準を維持することができており、宿泊客数の増加に寄与している。</p> <p>【コンベンション開催状況】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>平成 29 年度 (2017 年度)</td> <td>平成 30 年度 (2018 年度)</td> <td>令和元年度 (2019 年度)</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>322 件</td> <td>366 件</td> <td>313 件</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>105,560 人</td> <td>140,913 人</td> <td>139,053 人</td> </tr> </table>				平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	件数	322 件	366 件	313 件	参加人数	105,560 人	140,913 人	139,053 人
	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)												
件数	322 件	366 件	313 件												
参加人数	105,560 人	140,913 人	139,053 人												
事業の今後について	事業は、大規模なコンベンションの開催を積極的に誘致することも可能となり、更なる参加人数の増加も見込まれることから、引き続き事業を進めていく。														

●目標達成の見通し及び今後の対策

熊本地震の影響に伴い市内の宿泊客数の落ち込みは顕著であったが、2019 年においては、熊本城大天守の外観修復工事の終了に伴う特別公開が開催され、また「SAKURAMACHI Kumamoto」や「熊本城ホール」に加えて、約 200 室の客室数を有するホテルや結婚式場等が一体となった桜町地区再開発施設が開業するなど、観光客誘致事業等の効果により基準値は上回っている。

更には、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会といった国際的なスポーツイベントの熊本開催といった、多くの観光客を呼び寄せることのできる話題が豊富であり、国内外に向けて様々な観光プロモーション活動への取り組みを進め、中心市街地の宿泊施設客室数が増加するなど来熊する多くの観光客の受入環境を整備したことから、昨年に引き続き、高い水準での市内宿泊客数を維持することにも繋がった。

しかしながら、昨今、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることに伴い、その予防対策

として遠隔地への外出が制限されるようになったことから、本市の宿泊客数において、2020年3月における宿泊施設のキャンセルが、感染拡大前である前年同月と比較して約5割の減少となっている。今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況次第では、中心市街地における宿泊客数の動向に多大な影響が及ぶことが想定され、当面の先行きが見通せなくなることも容易に判断できることから、現況における目標達成可能との見込みが困難な状況となっている。

だが、今後、本市において新型コロナウイルスの感染が沈静化された際においては、一時減少に転じた宿泊客数の増加に繋げるための施策として、「熊本市プレミアム宿泊クーポン」の発行や、「熊本城特別公開の機会を捉えた観光プロモーション」等の実施を予定しており、減少した宿泊客数を改めて増加に転じさせる取り組みを着実に進めていく。

これとともに、順調に進捗している熊本城の復旧過程の公開や県内外から多くのエンターがある熊本城マラソンの開催等、観光客やイベント参加者誘致の各事業の効果により、多くの人々の来熊が見込まれるものであり、また、桜町・花畑周辺地区においては、2019年に桜町地区再開発施設全体が開業し、本格的に稼働することに加え、隣接する（仮称）花畑広場やシンボルプロムナードを含めたオープンスペースの整備を進めて、一体的な利活用を推進することにより、中心市街地の更なる賑わいの創出を図り、より一層の宿泊客の増加に向けて事業に取り組んでいく。